

## ひがしのぬのめ 10. 東野布目遺跡

所在地：勝山市北郷町東野 20 字 20 番地

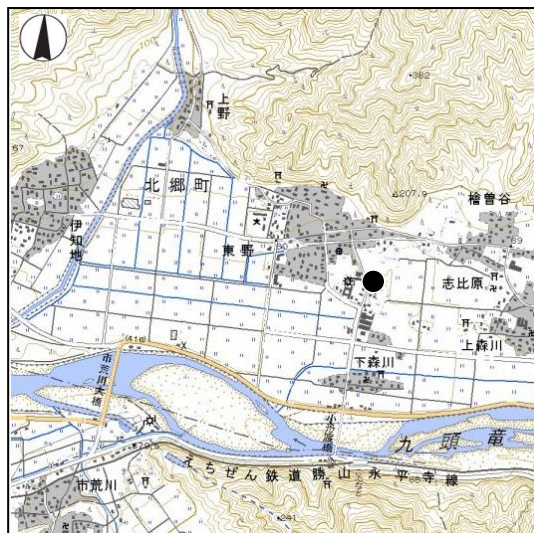
調査原因：防火施設工事

調査期間：平成 29 年 6 月 26 日～7 月 6 日

調査主体：勝山市教育委員会

調査面積：69.5 m<sup>2</sup>

時代：縄文時代後期～晩期・平安時代・  
鎌倉時代



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 遺跡が所在する北郷町は、勝山市の西端に位置し、東から西へ向かって流れる九頭竜川の右岸にあたります。東野布目遺跡の北西に位置する上野地区には、国重要文化財の指定を受けた旧木下家住宅が所在します。九頭竜川に沿って河岸段丘が発達しており、この近辺にある現在の集落や多くの遺跡はこの河岸段丘上に分布します。当遺跡は、これらの遺跡群の中央に位置しています。本調査地の現況は畑で、210m北上した東西方向の県道 112 号線沿いに水路があります。試掘調査で幅員 2.1m、深さ 0.35mの南北方向の溝 1 条を検出したことから、周囲の遺構分布状況及び溝の記録保存のために発掘調査を行いました。

**遺構** 溝、石組井戸、土坑、柱穴を含む小穴などを検出しました。溝は、南北方向に延びており、端は調査区外に続いています。上層は粘性が強い覆土、下層は砂粒を含む覆土であることから、水が流れていたと考えます。また、南北で底の標高に差があり、北から南へ水が流れる人工的に掘削された水路と考えられます。底面から打製石斧や縄文土器の他、須恵器が見つかり、平安時代のものと比定されます。また、調査地南壁面では、平安時代から鎌倉時代の土器や川原石を多量に含む土坑 4 基を検出しましたが、近現代の遺構と想定しています。

**遺物** 縄文土器、須恵器、越前焼、石器、銅銭の破片が出土し、総数は約 30 点を数えます。遺物は遺構から出土したものが主体で、川原石を多量に含む土坑から、最も多く出土しました。

**まとめ** 本調査区では、削平の影響により建物を復元することはできませんでしたが、平安時代に比定される溝を発見しました。北方から水を引き込み、土地を開墾し、古代の集落を形成していったことが伺えます。また、縄文時代後～晩期に比定される土器片が溝底より出土したことから、周囲に縄文時代の集落があり、古代に土地の開墾がさらに進み、地形をうまく利用しながら村落を作っていることがわかりました。今後の発掘調査で集落の中心が発見されることが期待されます。  
(藤本康司)



発掘調査作業状況（西から）



溝底より出土した打製石斧（南から）



調査区南壁面の土坑群（北西から）



石組井戸の検出状況（東から）



調査地全景（南東から）



水が流れる溝のイメージ（南から）